

複式学習指導実践事例 (算数)

5年「小数のわり算」《本時3/9》

○ 目 標

(小数) ÷ (小数) の計算の考え方や方法を理解する。

6年「倍と割合」《本時4/4》

○ 目 標

割合が分数倍で表されている2つの数量で、もとにする量を求めることができる。

過程	教師の指導と評価	位置時間	主な学習活動 (第5学年)	主な学習活動 (第6学年)	教師の指導と評価	過程
<p>つかむ</p> <p>学習の進め方を確認する。 間接指導時に充実した学習を進めるために、「ガイド学習」を取り入れる。</p> <p>ガイド役の児童には、事前に学習の進め方を指導するとともに、他の児童にも学習の手順や進め方、目安の時間を提示しておく。</p> <p>前時までの学習との関連性を明確にして課題に気付けさせる。</p> <p>前時の解決方法を参考にさせる。</p> <p>時間を決め、その時間内で解決できるようにさせる。 ③ 計算の仕方を言葉や式、図を活用して考え、表現することができる。</p> <p>「わたり」後の直接指導 ☆ 間接指導後の直接指導で個別に指導した児童の達成状況を確認する。</p> <p>明確なまとめ 明確なまとめが、的確な評価を可能にする。</p> <p>練習用プリントを用意する。 小黒板を準備し、考え方を書かせて提示させる。</p> <p>ガイドの指示により練習問題に取り組み、解答させる。 自己評価カードに記入させる。 ① 次時の学習課題の内容を知らせる。</p>	<p>教師の指導と評価</p> <p>学習の進め方を確認する。 学習の進め方を確認する。 めあてをつかむ→見直しを立てる→自力解決→発表する・練習上げる→整理とまとめ</p> <p>学習課題を知る。</p> <p>3.2mのかわをぬるのに5.76dlのペットボトルを使い、1mのかわをぬるのに、ペットボトルを使うだろうか。</p> <p>① 課題の内容を把握する。 何か分かっているのか。 何を求めるのか。 加減乗除のどれか。 既習内容を想起する。 (整数) ÷ (小数) の計算の仕方</p> <p>学習問題を焦点化する。 (小数) ÷ (小数) の計算は、どうすればよいのだろうか。</p> <p>解決の見通しを立てる。 前時での学習を想起し、線分図等で考える。</p> <p>自力解決をする。 ① 線分図を使って考える。 ② わり算のさまじりを使う。 ③ 一つの考え方で解決できたら、他の解決方法はないか考える。</p> <p>前時のノートを活用したり、ヒントカードを参考に自力解決する。 それぞれの考え方を発表し、話し合う。 線分図、わり算のさまじりを使って考える方法の両方を取り上げ、意見交換し、練習上げる。</p> <p>学習のまとめをする。 (小数) ÷ (小数) の計算は、0.01のいくつ分かわり算のさまじりを使って整数になおして計算すればよい。</p> <p>練習問題を行い、解答をする。 次の計算をしましょう。 ※ 計算の方法もかきましょう。 (1) $9.52 \div 3.4$ (2) $20.4 \div 0.3$</p> <p>本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。 (1) 振り返りカードに記入する。 (2) 次の学習内容を知る。</p>	<p>10分</p>	<p>前時の学習を復習する。 練習問題に取り組む。</p> <p>学習の進め方を確認する。 学習の進め方を確認する。 めあてをつかむ→見直しを立てる→自力解決→発表する・練習上げる→整理とまとめ</p> <p>学習課題を知る。</p> <p>たけしさんは、ソフトボール投げで、56m投げました。これは、たけしさんの学級全員の平均の7/6倍に当たります。たけしさんの学級全員の平均は、何mでしょうか。</p> <p>① 課題の内容を把握する。 何か分かっているのか。 何を求めるのか。 既習内容を想起する。 もとにする量、割合、くらべられる量の関係を想起する。</p> <p>学習問題を焦点化する。 「割合」が分数倍で表されている量で、「もとにする量」はどのように求めればよいのだろうか。</p> <p>解決の見通しを立てる。 前時までの学習を想起し、線分図等で考え、「もとにする量」、「割合」、「くらべられる量」を明らかにする。 自力解決をする。 ① 線分図を使って考える。 ② 表を利用して、式を考える。 ③ 一つの考え方で解決できたら、他の解決方法はないかを考える。</p> <p>前時のノートを活用したり、ヒントカードを参考に自力解決する。 それぞれの考え方を発表し、話し合う。 表、線分図を使って考える方法の両方を取り上げ、意見交換し、練習上げる。</p> <p>学習のまとめをする。 割合が分数の場合も、「もとにする量」は、わり算で求めることができる。</p> <p>本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。 (1) 振り返りカードに記入する。 (2) 次の学習内容を知る。</p>	<p>教師の指導と評価</p> <p>導入時に6年生はヒントなどの復習の時間を設け、指導過程をすらすらことにより、5年生の直接指導を行えるようにする。</p> <p>分数のわり算についての計算問題を準備し、計算が確実に処理できるかどうか確認させる。</p> <p>ガイド役に事前に指示しておき、答え合わせさせる。</p> <p>「わたり」前の直接指導 ☆ 確実な解決の見通しをむたさせる。 ☆ 間接指導時の活動内容をしっかりと理解させ、自力解決できるように指導を行う。</p> <p>前時の解決方法を参考にさせる。</p> <p>「もとにする量」、「くらべられる量」、「割合」の関係を図や表に表し、考えることができる。 「もとにする量」を求めることができる。 考え方を書かせて発表する準備をさせる。</p> <p>教師のわたりを考え、どの場面でガイドを立てるのかを考えておく。</p> <p>小黒板を準備し、考え方を書かせて提示させる。</p> <p>自己評価カードに記入させる。 ① 次時の学習課題の内容を知らせる。</p>	<p>つかむ</p> <p>つかむ</p>	
<p>見通す</p> <p>調べる</p>	<p>見通す</p> <p>調べる</p>	<p>13分</p>	<p>7分</p>	<p>5分</p>	<p>見通す</p> <p>調べる</p>	
<p>つかむ</p>	<p>見通す</p> <p>調べる</p>	<p>10分</p>	<p>7分</p>	<p>5分</p>	<p>見通す</p> <p>調べる</p>	